

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	13	岡豊	高等学校	課程	全
------	----	----	------	----	---

高知県の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	スケールメリットを生かして多様な教育課程や部活動の充実を図り、特色ある拠点校として、各分野で活躍する人材を育成する。 文化・芸術やスポーツ等の教育活動を通して、教養・感性を養い、人間性豊かでたくましく、よりよい社会の構築に寄与する人材を育成する。
	【アドミッション・ポリシー】(入学受け入れ方針) ○自分の可能性を信じ、あらゆることにチャレンジできる生徒を求めます。 ○学習に真面目に取り組み、自己の素質や能力などを発展させようとする意欲のある生徒を求めます。 ○規律ある学校生活を送り、集団の一員としての自覚をもち、節度ある行動がとれる生徒を求めます。 ○部活動や生徒会活動、ボランティア活動等に積極的に取り組んだ経験があり、入学後も継続して活動する生徒を求めます。 ○芸術コースでは、芸術全般に興味があり、芸術に関する基礎的な教養、豊かな感性と柔軟な思考を有し、明確な目的意識をもって学習に取り組む生徒を求めます。 ○体育コースでは、トップアスリートまたは指導者等を目指す意欲があり、文武両道の精神に満ち溢れた生徒を求めます。		【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○生徒一人ひとりの進路選択に対応した教育課程(5類型2コース)を編成します。 ○キャリア・パスポートの活用・課題探究活動の展開を通じた課題発見・解決能力の習得に取り組みます。 ○大学や地域との連携による実践的で体験的な教育活動に取り組みます。 ○芸術コースでは、芸術文化全般に対する深い理解と共感をもち、新たな創作活動につながる教育の実践と積極的な各種コンクールへの出品、演奏会への出演に取り組みます。 ○体育コースでは、体育専門科目を設定し高度で質の高い学習指導を行うとともに、大学や関係機関との連携による専門性の高い最新のスポーツ科学を土台とした実践的な教育活動の展開を行います。
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○「規範意識」と「確かな学力」を身に付け、自ら目標を設定し主体的に「学び」を創造できる生徒を育てます。 ○多様な価値を尊重し協働的な学びを通して、知・徳・体の調和のとれた文武両道に励む人間性豊かな生徒を育てます。 ○芸術コースでは、創造的な表現力や感性を養い、芸術的才能を伸ばすとともに個性豊かな生徒を育てます。 ○体育コースでは、スポーツを「する」「みる」「支える」様々な立場に関り、国際的視野をもった生涯スポーツの担い手として地域社会で活躍する生徒を育てます。		

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 B 】
<ul style="list-style-type: none"> ・C層以上の生徒の割合、将来のための勉強をしている生徒の割合、進路実現については目標をほぼ達成できている。 ・授業外学習時間が少なく、改善方法を考え実施し、PDCAサイクルで検証すべきである。本年度は「生徒の学び場づくり」として放課後大会議室の開放を行い、自学自習の時間と場所を提供している点は評価できる。学習時間を増やすことも必要だが、学習の質を向上させることも大切である。 ・学力向上については、教育課程の見直し、さらなる授業改善を行い、岡豊高校の魅力を発信してもらいたい。 ・進路実績で国立大学合格者および公務員合格者数が昨年度より減少しており改善が必要である。 	
【社会性の育成】	評価 【 B 】
<ul style="list-style-type: none"> ・地域との共存や協力などが可能な限りできている事は評価できる。また、ボランティア等による社会貢献は大きいので、継続して行っていく必要がある。日々の学習や部活動が地域貢献活動等に繋がっているということ、生徒が意識を持って取り組めるような仕組みづくりが必要である。 ・礼節を重んじる指導は必要である。生徒会を中心に生徒自身が問題意識、課題意識を持って取り組みを推進できるよう、生徒の意見を取り入れた指導に期待する。 ・生徒が将来の夢や目標を持つことが学習意欲に繋がっていくと思う。 ・保護者目線で生徒の活動があまりにも見えないので、動画やSNSの配信によるPRも必要。 	
【チーム学校】	評価 【 B 】
<ul style="list-style-type: none"> ・各学年団や生徒指導、生徒支援などの教員が事案について早期の対応し、また各部活動はそれぞれ実績をあげており目標は達成されている。 ・「岡豊高校の魅力化・特色化の柱と取組(案)」が示された。全ての教職員が柱①、柱②について、自分事として、それぞれの立場で取り組みを推進してくれることに期待する。 ・時間外勤務については、教員の熱心な取り組みによりおこる現象でもあろうかと思うが、要因の分析を行い、業務の見直し等を進めることにより教員の負担軽減を図るなど改善に努めてほしい。 	

(評価) A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力[P]	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) 	<ul style="list-style-type: none"> ○C層以上の生徒の割合 ・1年(64.3%)→75%以上・2年(66.9%)→75%以上 ○授業外学習時間の1時間以上の割合 ・1年、2年:50%以上 ○将来のための勉強をしている生徒の割合 ・1年、2年、3年:90%以上 ○進路実現 ・国立大学合格者 :25名以上 ・公務員合格者 :20名以上 ・就職内定率 :100% ○◎解決に時間がかかることも、最後まで考えたり行動したりしている。・1年、2年、3年:90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価を活用した授業改善(授業改善の3項目の確認) ・One-Weekトライアルを学び直し教材として活用 ・進学補習、スタディーサプリ、模試の有効活用 ・タブレットPCの活用(部活動と学習の両立・家庭学習の推進) ・キャリア・パスポートの活用 ・手帳を活用した自己管理能力の育成 ・進路検討会を活用した進路支援の推進 ・授業外学習習慣の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ○C層以上の生徒の割合(1回目) ・1年 64.3%(国83.6%、数80.3%、英45.2%) ・2年 66.9%(国66.0%、数60.1%、英53.7%) ○授業外学習時間の1時間以上の割合(1回目) ・1年 52.5%・2年 19.7% ○進路希望状況(9月) ・国立大学:48名・公務員:22名・就職:20名 ○◎解決に時間がかかることも、最後まで考えたり、行動したりしている。(1回目)1年 91.3%、2年 84.4%、3年 89.1% 	<ul style="list-style-type: none"> ○C層以上の生徒の割合 ・One-Weekトライアルの有効活用 ○授業時間外学習時間の割合 ・タブレットPCの活用(タブレットを活用した宿題の配信等) ・学習支援員を活用した放課後やテスト期間中の学習環境の整備(時間・場所の確保) ○進路実現(進路意識の向上等) ・キャリア・パスポートを活用した進路指導 ・進学補習の実施及び模試結果等の活用 ・3年生進路面接の強化(内容・回数等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○C層以上の生徒の割合(2回目) ・1年 75.1%・2年 74.7% ○授業外学習時間の1時間以上の割合(2回目) ・1年 22.0%・2年 21.7% ○将来のための勉強をしている生徒の割合(2回目) ・1年 86.7% 2年 90.7% 3年 88.0% ○進路実現(R8.3.1時点) ○進路実現(進路意識の向上等) ・公務員合格者 :19名 ・公務員合格者 :15名 ・就職内定率 :95.2% ○◎解決に時間がかかることも、最後まで考えたり行動したりしている。(2回目) ・1年 88.3% 2年 88.5% 3年 93.4% 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が授業に取り組む環境づくり(授業規律の徹底、教室の環境整備等) ○授業改善(公開授業、教科会の定例化) ○生徒の学び場づくり(放課後の自学自習時間・場所の確保) ○生徒・保護者等との進路目標の共有と明確化(計画的な面談週間の活用等) ○進学補習等の在り方についての再検討
	社会性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 現状:礼節に重点を置いた指導、部活動、学校行事とも充実。 ○◎自分という存在を大切に思える生徒割合 ・1年、2年、3年:85%以上 ○◎将来の夢や目標を持っている生徒の割合 ・1年、2年、3年:85%以上 ○◎高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある。・1年、2年、3年:50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や部活動、手帳、キャリア・パスポート等による生徒の見取りと助言 ・生徒会活動やコース・類型の特性を活かした地域貢献 ・総合的な探究の時間の充実 ・授業や部活動、学校行事やボランティア活動、校外活動の場面での礼節を重んじる指導の充実 ・生徒・保護者・教員による不断の校則の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ○◎自分という存在を大切に思える生徒割合(1回目)1年 91.7%、2年 85.5%、3年 89.9% ○◎将来の夢や目標を持っている生徒の割合(1回目)1年 76.0%、2年79.9%、3年 87.1% ○◎高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある。(1回目)1年 32.4%、2年 39.1%、3年 59.2% 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な探究の時間 ・地域の企業・団体への訪問を通して課題を理解、解決方法を提案 ○礼節を重んじる指導 ・授業、部活動、学校行事等における指導を徹底する。 ○担任、顧問等による個別面接 ・ホームや授業等において、キャリア・パスポート等を活用した個々の生徒の見取りと個別の指導・支援を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○◎自分という存在を大切に思える生徒割合(2回目) ・1年 89.0% 2年 87.8% 3年 88.0% ○◎将来の夢や目標を持っている生徒の割合(2回目) ・1年 75.0% 2年 82.5% 3年 91.5% ○◎高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある。(2回目) ・1年 32.0% 2年 54.1% 3年 70.3%
取組項目	地域協働学習	<ul style="list-style-type: none"> 【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事やボランティア活動等への参加による社会参画意識の醸成 ・地域企業や大学、関連機関等から講師を招聘し、高い技術力・専門性を生かした特色ある授業等(専門力向上、進路実現、課題解決学習等)を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○◎地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができる(1回目)1年 70.7%、2年 62.3%、3年 67.3% ○◎高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う(1回目)1年 64.4%、2年 65.1%、3年 73.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域行事やボランティア活動等への参加による社会参画意識の醸成 ・地域の関係機関と連携し、生徒が地域行事やボランティア等に参加できる環境整備。(情報提供、学習活動としての機会設定等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○◎地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができる(2回目) ・1年 63.3% 2年 68.5% 3年 76.8% ○◎高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う(2回目) ・1年 60.0% 2年 74.5% 3年 82.2% 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の関係機関と連携し、生徒が地域行事やボランティア等に参加できる環境整備。(情報提供、学習活動としての機会設定等)
	教科横断的教育	<ul style="list-style-type: none"> 【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 現状:総合的な探究の時間や各教科で取り組んでいる。 ○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を設定:学期に1回以上 ○◎総合的な探究の時間における教科横断的な探究活動の割合:50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○探究活動等を通じた人材育成(DX加速化推進事業の活用) ・大学と連携したDX講座の実施(理系人材の育成、ICTを活用した探究的・文理横断的な学習の推進) ・外部講師等を活用した課題解決学習の推進 ・企業や大学と連携したデジタル技術や研究分野等の学習(講義訪問)の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科では、授業における言語活動や情報活用の場面を意識し、思考力・判断力・表現力を高める授業づくりに取り組んでいる。 ○9月から学校全体で実施する公開授業に向け、各教科において「育成したい能力」を整理するなど、知識伝達型授業からの脱却を目指した授業改善計画を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「授業デザインプロジェクト」 ・各教科の学びを実社会に繋げる活動を通して、発信力を養う場面を増やしている。(知識・技能・理解をもとに思考・判断・表現力を高める授業づくり) ○「総合的な探究の時間」 ・集団(1年次)から個(2、3年次)での探究活動へ、根拠を伴った探究活動の支援 ・生徒アンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○「授業デザインプロジェクト」 ・校内研修において教科の本質をとらえた展開の重要性を学び、公開・参観授業を実施した。 ○DX加速化推進事業の活用 ・体育コースおよび芸術コースにおいて、取組の枠組みを明確化し、特色ある活動を実施した。 ○「総合的な探究の時間」 ・1・2年で学年発表や関係企業を招いた発表会を実施した。 ・教科横断的な探究活動 69.5%

チーム学校	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
学校の振興	<ul style="list-style-type: none"> ★学校の魅力化・特色化 ○部活動の活性化により礼節を重んじる態度や仲間と協働する力、主体的に取り組む姿勢を育成する ○生徒たちが生き生きと学校生活に取り組めるような環境の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ○魅力化・特色化の具体的な目標(指標) ・全国レベルの大会(コンクール)昨年度の実績(R6:延べ20競技・部活動) ・学校評価アンケートの部活動に関する設問の肯定的回答:90%以上 (R6:生徒94.8%、教職員78.6%、保護者92.9%) ○学校運営協議会等の実施回数:年2回 	<ul style="list-style-type: none"> ・HP等の活用による積極的な情報発信 ・活動の成果を発表、紹介する場面の設定 ・部活動支援事業を活用した指導の充実 【文化活動サポート事業、運動部活動指導員派遣事業】 ・ホーム担任や教科担当教員等と連携した文武両道に向けた組織的・計画的な指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国レベルの大会(コンクール)への出場 体育部:柔道、陸上、漕艇、ボクシング 文化部:吹奏楽、合唱、美術、ギター、文芸部 ○学校運営協議会の実施 ・9月5日 第1回学校運営協議会開催 ・2月中旬 第2回学校運営協議会開催予定 	<ul style="list-style-type: none"> ○魅力ある学校づくりに向けての検討(検討事項) ・教育課程の見直し・学びの質的向上に向けた対策 ・部活動活性化に向けた対策 ・生徒・保護者、地域の意見・要望等 ※学校評価アンケートの実施、学校運営協議会委員からの意見聴取 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国レベルの大会(コンクール)への出場 ・21競技・部活動(R6実績:20競技・部活動) ○学校評価アンケートの部活動に関する設問の肯定的回答 生徒96.6%、保護者等91.3%、教職員83.9% ※学校評価アンケートの実施、学校運営協議会委員からの意見聴取 ○学校運営協議会の実施 2回(9月、2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○魅力ある学校づくりに向けた取組の推進(系列・コース、部活動、探究活動、教育DX、進路実現、特色ある学校行事など、学校の魅力・特色を整理し、積極的にPRしていく) 	
	不祥事防止	<ul style="list-style-type: none"> ★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○倫理観堅持のための具体的な目標(指標) ・不正防止のアンケートにおいて ◎勤務時間外であっても、自らの行動が教育全体の信頼に影響を与えることを常に意識して行動しているか。・意識して行動している:100% ○校内研修の実施回数:年3回 ○不祥事防止委員会の実施回数:年3回 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報を取り扱う際の事務処理体制の確認 ・既存の会議等での法令遵守やハラスメント防止の意識喚起 ・相談しやすい職場環境整備、相談窓口の周知等 ・「信頼される学校づくりのために」冊子を活用した校内研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○不祥事防止校内研修の実施(3回実施) ・6月3日、7月2日、8月29日 (ハラスメント、児童生徒性暴力等、わいせつ行為、性犯罪等、体罰、個人情報、飲酒運転、スピード違反等) ○不祥事防止委員会の実施(4回実施) ・4月3日、5月8日、6月27日、8月27日 	<ul style="list-style-type: none"> ○不祥事防止校内研修の実施 ・10月、12月、2月 ○不祥事防止委員会の実施 ・10月、12月、2月 ○不祥事防止アンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○倫理観を意識した行動 100% ○不祥事防止校内研修の実施(5回実施) ・6月3日、7月2日、8月29日、10月31日、12月1日 (ハラスメント、児童生徒性暴力等、わいせつ行為、性犯罪等、体罰、個人情報、飲酒運転、スピード違反等) ○不祥事防止委員会の実施(5回実施) ・4月3日、5月8日、6月27日、8月27日、11月28日 	<ul style="list-style-type: none"> ○所属職員が互いに認め、高め合う学校組織づくり(報告・連絡・相談の徹底、相談しやすい環境づくり等)
	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ★長時間勤務の解消 ○限られた時間の中で、授業改善や生徒に接する時間を十分確保し教育効果を最大限に発揮できる環境を整備 	<ul style="list-style-type: none"> 現状:4月から1月まで述べ超過人数127名 ○各月の時間外勤務の上限時間(45時間以上の職員数):15名以下 ○時間外勤務の上限「年間360時間を超える教員数」:20名以下(R6:28名) 	<ul style="list-style-type: none"> ○OJTの観点から分掌の枠にとらわれず全員で担当できる業務を精選 ・勤務時間管理システムへの確実な入力 ・年間計画に定時退校日の設定及び学校閉鎖日の設定 ・部活動方針による活動時間と休養日の順守 ・業務の見直し(自動採点システムの活用等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○各月の時間外勤務の上限時間(45時間以上の職員数) 4月:23名、5月:23名、6月:13名、7月:12名 8月:6名 ○4月～8月の時間外勤務合計時間が150時間を超える職員数 43名 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の時間外勤務の削減 ・管理職員による個々の教職員への声掛け(定時退校日等)・自動採点システムの活用促進 ・次年度に向けた業務改善の検討(組織体制の見直し、各分掌におけるスクラップ業務等の洗い出し等) ・教員業務支援員の活用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○各月の時間外勤務の上限時間(45時間以上の職員数)が15名以上の月 4月:23名、5月:23名、9月:17名、10月:19名 ○時間外勤務の上限「年間360時間を超える教員数」32名 	<ul style="list-style-type: none"> ○外部人材(教員業務支援員、運動部活動指導員、文化部活動指導員、学習支援員等)の有効活用 ○各教科、分掌等における業務計画や分担の見直し及び業務の精選 ○定時退校日、学校閉庁期間の周知と徹底(管理職、職員間の声掛け)